

事務事業名	献血推進協力事業		所属部局	保健福祉部		単位番号	5182																								
			所属課室	健康増進課		課長名	櫻田 正文																								
	☐ 実施計画事業		所属担当	健康企画担当		担当者名	矢崎 貢司																								
基本政策	基本計画体系	IV	快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目																				
		18	健康づくりの推進		01	一般	04	01	01	02	00	7																			
政策		31	保健・医療の推進	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金																										
施策																															
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 15 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			法令根拠	安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律																										
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 市民を対象に献血の推進を図る。山梨県赤十字血液センターの依頼により、市内において、市主催の献血事業を年13回程度実施する。1人でも多くの協力が得られるよう広報、ポスター、ホームページ、防災無線を利用して協力を呼びかける。献血協力者には記念品としてボックスティッシュを贈呈している。(血液センター、ライオンズクラブからも記念品の贈呈あり)			事業費の主な内訳 (22年度) <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目(細節)</th> <th>金額(千円)</th> <th>項目(細節)</th> <th>金額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>その他報償費</td> <td>154</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>計</td> <td>154</td> </tr> </tbody> </table>								項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)	その他報償費	154													計	154
	項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)																											
	その他報償費	154																													
		計	154																												

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	山梨県赤十字血液センターからの依頼により市内6会場にて13回の献血を実施した。
23年度活動予定	市内6会場にて13回程度実施する予定である。(実施回数は山梨県赤十字血液センターからの依頼によるため未確定である。)
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
市民	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
医療に必要な血液製剤の安定的な確保	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
適切な医療の推進	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 献血実施回数	回
イ 献血協力者数	人
ウ	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 献血協力対象者(16歳～64歳)	人
イ	
ウ	
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 200cc献血者	人
イ 400cc献血者	人
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 市民アンケートの緊急医療体制についての満足度	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
			県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
			地方債	千円	0	0	0	0	0	0	
			その他	千円	0	0	0	0	0	0	
			一般財源	千円	44	154	145	126	126	126	
	人件費	事業費計 (A)	千円	44	154	145	126	126	126	0	
		正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1		
		延べ業務時間	時間	91	92	92	92	92	92		
		人件費計 (B)	千円	406	410	365	365	365	365	0	
		(A)+(B)	千円	450	564	510	491	491	491	0	
活動指標			アイウ	回	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0		
			アイウ	人	1,074.0	942.0	1,300.0	1,350.0	1,400.0	1,450.0	
対象指標			アイウ	人	47,093.0	47,138.0	47,070.0	47,021.0	46,566.0	46,175.0	
			アイウ								
成果指標			アイウ	人	152.0	139.0	200.0	230.0	250.0	270.0	
			アイウ	人	721.0	661.0	840.0	850.0	870.0	890.0	
上位成果指標			アイ	%							
			アイ								

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	昭和31年の法律の施行により、採血事業者による献血の受入れが円滑に実施されるよう、必要な措置を講じることが市町村の責務となった。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	少子高齢化による献血協力対象者(16歳～64歳)が年々減少しつつある。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	特になし。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☐ 取り組みしている ⇒【内容!】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由!】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	周知方法を工夫し、献血への協力を呼びかけている。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	広報に献血の特集ページを設け、献血のメリット等を紹介し献血への協力を求めた。

事務事業名	献血推進協力事業	所属部	保健福祉部	所属課	健康増進課
-------	----------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 血液製剤が十分に確保されることにより、適切な医療が受けられる。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 当該事業は法律によりその責務が市町村に課せられているため。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 当該事業は法律によりその責務が市町村に課せられているため継続していかなければならない。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 周知方法を工夫することで、献血協力者を増加させることができる。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 医療に必要な血液製剤の不足。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 法律により義務付けられているため。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 事業費は献血協力者へ贈呈する記念品(ボックスティッシュ)のみであるため削減はできない。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 業務時間は山梨県赤十字血液センターで指定した時間帯で献血事業を行っているため、削減はできない。また、広報やホームページ等による周知や血液センターとの日程調整、献血場所の確保など臨時職員や外部委託では対応できない部分が多い。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 献血協力対象者は法律によりその年齢が定められており、その中で献血に協力いただいた方に対し記念品を贈呈することは適正であるとする。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	合併当時より献血協力者数が減少しているので今後は工夫が必要。普及活動・広報活動など検討すること

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について																								
①																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①		成果優先度評価結果	⑧																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					